は

宮内省圖書寮

夫須寸志抄巻第二

同源

丹羽橋立暁霧疊銀河夏
岩成内近亭乃契けるや
芦々の式部書見女とかるまて
四花乃章編

明治

丹後橋立曉翁銀河より書こす十

そもそも丹後の国与佐の浦成合れかりにおもしろ
かりしかどもいまこゝ千とゝろ人ど容貌ゆうびれて気質
温和なり行ゞしの中ねるとゝやいひて感歎ならしめたるいう
なる故しや病と称して命より唯一人曉翁と名をよく篠
の菴のかゝとゝわが世を外よりもいとそれ住ひし
宮ゝより山所をあ双の眺を山あ成をあり今ゝ歳きの
して秀美嶽あらうひて流るゝ白砂真中
と一葉の小舟よ乗じ風帆なびきゆく所よ四りせ或い魚
水涯よとゞうをとゝ人ゝい鷗の沖よおろひ例清れ白鷺
と友ゝ人す。花もまた春ゝ雪ゝ月ゝ清

[illegible]さ文晴横い雲よりぐ成合もいは底よう[illegible]
天志掛五乃雲い浪よりしらかつ[illegible]しれ[illegible]
紙煙乃久あを掛志乃漢しらぐめろに嵐風仙よりそり星
汁ちんとまりく海ろてを混ぞぱやるくもなくぐうはとと
かく芦乃篇波乃艘を汀よりて舟中よりふる通よ時絞つ
晴てとろわぐちくきゆ百よ乃南北よちこよがごとく。雲海
を引ひ舟忽ようごき出ろわゆくゆ表すやりり風
みかぎりつまぞのりてつ門がごとく暁霧いりるかまと
とうはらあ一須曳ふて岸よにくき乳肌よ通り清光
同をとうふ。玉田流くうー花まうれ中よまちぐごく
海潮くうー異獣神魚そ乃よ鶴ぶ舊船ひうがりす
ふ[illegible]ちげまり義潮くくへ出よりくぐかまちとろる遠

わくく瑞天金閣くうむへ。天乃仙女四よりつ[illegible]れて
くふきらうりるふ衣れ裏ととり酒乃霧をふぐるよりくへ
金閣をかざ一人を出れ[illegible]ととりりぐ蔭れりうう
ふり暁よ霧よとうり海まるんぐ生きや霧参て日
れりうわい紙を海西よろうう[illegible]ぐを魚ま[illegible]
ぶ海いぐであんんいりり紙よ駅くまるる寛ふうや仙
女第いて海いうぐう音をちる[illegible]を通へて変れ至る
ちびかうれ紙いめ風よろる義とれ久ぶ久変順徳よ存高
を紙海をかりて世ふ海ひ乃暁霧をむ人て家
よりりるくめうりをむうて門よ入ゆくう一町半二
乃大殿りり天章殿と額あり殿れ撮よ高橋あり。
[illegible]しも霊光閣といふうちに雲母乃屏風と書

手婦乃ちそれ四面うれるの晶乃蔓瀰瀰乃海と訓髮
をかくぬわくかと白盈乃ごとし蘭麝乃かおり芳しくと
して仏ようなし郁車乃図院もかくやとうつ計り刈
義を席よりうそ伽め結りのふとの地をうつ世
ようなし銀河といふを是ありでうれやを濡かの神
ありくるる蛟とかりうる八方金里ぬ人間世界ちの頑
とゆよつるる下蛟乃人間世界ホと蛋をむしくもとの
何乃幸かりて蛟乃府よまり足よ仙をぬをうる。
河乃をとうこうに下る。神をの綱を渡く愚魚と
相めを。仙女嬉ぶかりて折笑ひ弱てる帝乃孫昊星乃
姫ごうに貞姓をうる鱗をとるわくかるをぶるの
ふ点りん下蛟乃愚民ぬ徒を書に結乃部とをいへく

とうて牽牛乃書をすり清潔乃ほとを城乃ゆをうる
うの鬱をきけ乃泡をうる多俗乃書紙乃ゆ世俗不潔乃結を
乃伝を伝をうて芒をの上ものい唐乃柳宗元を坊れふと
御ものその中とうるくれをうる代乃ものを代乃新綱を
ゆうしうるうにものをるく鄂結牛言をんぐ動うるの所あ
らむ塵いに熱書よ形り篇章にはぐ伝の或い北中住人双流流
眼寧勝乃ゆ三牽牛ぐうゆ或をそをてと編相見移人
問言不面ゆいかくごうにわうふくいをうぐセうれめうる夜乃数う
すくれうるを濃わの天文地乃文地をうるうす神霊と
あれあるくり兵係る牛とをうずるをうをぶるうえん
ぐ鬱うてを。鬱乃搗乃會牛ぐうるうむ。ぐうる雲乃綱をゆ
てうる乃あ結ををる。婦婦乃民殿乃牛。湖灵夏乃詩乃

きくもの是ゝてはりや拵いまぐさたくずや仙女乃ひすく
燈の影乃殿乃仙女。雨靈を竟れ燈。暮れ屋ゝ賢聖
孫。貞列ゝ神ゆゝ世俗乃ごとくなりん。情欲まゝ易く
事拙又掩ゝれもく世乃人目を涙も詩よ。常燈可
倫靈業。現ゆまゝ夜を心とつゝ。月兩曜混沌乃際
ゝ。開闢乃始ゝ。己よりなりゝ。第をぬと今中あんや。
雲乃山川乃靈氣。雨ゝて紙乃流沢ゆゝ。やまりて房園ゝ
をれゝみとゝん。てをゝなりゝ神をゝ。是より言葉ゝ
初。邪嬢乃網を。沢靈紙ゝ。むゝと欲乃弦ゝ各
みな記書ゝ。ゝ書なきゝ。ゝ刈欲なきゝ。ゝかゝ故
をゝ。ゝてゝゝゝ

[illegible]を涙をぬぐひて瑞龍寺[illegible]
[illegible]揚してつゝがなく帳をすまして蚊帳毒虫つゝ涙衣裳をす
[illegible]雨雪にぬれずすみそしい暖く盛衰しい浮くゝろ
ういこい枝葉に葉の間[illegible]ところ糸を銀河の[illegible]ふくゆ
織女の撥を織しかれ[illegible]てゝ永めのふしゝゆまゝど暁翁
[illegible]しくひるといつて涙載附みわ紙を拾さらて[illegible]ろ[illegible]ニてひ
ゆらず遠りてさく大[illegible]山として古人は遠客[illegible]むしに暫ち
[illegible]業の帽[illegible]ふしぬ[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]ふ[illegible]

[illegible]の衣よりぬぎ[illegible]ゆくうぢよ実衣
[illegible]の川ゆかたをうかべたる[illegible]の[illegible]
[illegible]もいとをかしげや[illegible]
[illegible]して蒙[illegible]をとらしむと二人の[illegible]
下部かうこの臭してのとりくうかまと荷下に[illegible]の男山
の[illegible]と嫌背[illegible]中[illegible]の[illegible]を入日[illegible]
なきんばんよ唯殘[illegible]と[illegible]花とに[illegible]
[illegible]ふ舟揮さして[illegible]間よりあらか漁[illegible]
[illegible]ようと[illegible]の[illegible]日よりあげ[illegible]を[illegible]
[illegible]のべばようかまとなるよ[illegible]
琴の音をたづねり。遥[illegible]の[illegible]神よりうまりつと[illegible]

[illegible]して[illegible]琴の音と[illegible]
[illegible]の書院の[illegible]
[illegible]
[illegible]

めとせずなげあえり船中に酒をひすゝくあり俗語
酒のしひきぶをゆらく蓋人と翁を六十男女良らあ
うめ赤とて漁家にてさひらくあごせうひてすゝあ
ぶくこうくうろうくうくうくをつゝてゆあ主人よ
ひい月もくまのさいおをの夜ふかく皆くはくひ俳ゝんふと
いいと亭よりとびのりぐの琴の音とゝゆくくにいひのくをわ
えよ字はら琴の音とゝゆくくにいひのくをわ
ろわとて野人が姫ゝよすびとりて琴びきつゝぬぎゝ覚系
よ入をもうくなゝ物よゆゝずゝてはまなに西ぎよそうぬた
りこうわて障子より山女と月とめをんわりせくよ
和をいりせてゆゝにとゝいををぐにろにさすぐ人めとろ
かゝく読よ取も文ゆゝとゝをのくいをの

とゝて文ゝろ色とちぎりゝあよ指ゝゝてゆりのゝゝ
時光をゝ和て於ゝゝゝくゝ家よまゝゝゝゝゝゝ
いゝゝむゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんぐず世ゝ人よゝゝゝずゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と文よわゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
通ゝ文婦とゝゝまいゝゝんとゝゝゝくすゝいゝゝゝゝ
よゝのゝゝかく祝宜祝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
甲斐ゝゝゝあゝゝ文婦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]ねんごろにおもてなしくすしにうれ人よびてこれをとり合く
[illegible]むかへと氏神より祈願をかけてれまして[illegible]
かくなれうへを友[illegible]しかるに[illegible]乃世代罪をいうるんこころつよ
看病をすれども[illegible]かぎりれうき世しばをまつ[illegible]
枕を[illegible]れしやかりの[illegible]すりたるこにてこれ[illegible]
こと撮こうとおもへとこころいとまきのうこわも[illegible]
[illegible]まとひなぐ町乃くばきに人を[illegible]より柔ぐ内面
いつぐやの紙[illegible]わうとうの[illegible]毎よおもて[illegible]
[illegible]ありに[illegible]顔[illegible]ほうとうさす
[illegible]とうをあよいさなしひ[illegible]ふ姫[illegible]を[illegible]
[illegible]方やく[illegible]いさ[illegible]ねぶ[illegible]人を助[illegible]
[illegible]れて夜[illegible]情をうけて助乃[illegible]わりませと

[illegible]ぶ婦うもにかうにて紀[illegible]晴[illegible]えもかうわ[illegible]
[illegible]しまもしぬまりれぬ[illegible]
[illegible]を流やうて柳よりぐきうてうのほうべて[illegible]
[illegible]よ遠[illegible]所[illegible]の[illegible]乃
[illegible]ひを結[illegible]身いこ[illegible]
[illegible]ねぬ乃たりひ[illegible]
て天[illegible]る[illegible]四場りて一夜をわし猿乃[illegible]下よ[illegible]
[illegible]いる紫をこ[illegible]中に[illegible]乃[illegible]独よ
[illegible]べてこうひをとこ[illegible]
よ中こ[illegible]乃[illegible]とこ[illegible]
城十[illegible]世[illegible]にう寒[illegible]を[illegible]吹[illegible]
細代乃[illegible]び[illegible]通[illegible]

ゆゑなくわらはれぬべきことに俳徊しうろたえ作
久間佐盛ゆゑにこそ[illegible]陸奥に[illegible]
行ときこえし流人[illegible]
分れ[illegible]日数をゆくほどに[illegible]
月廿七日に城をたちて[illegible]
立ちのぼる[illegible]
[illegible]分と捨て[illegible]
滅ぶ[illegible]

芦名武部ゆゑ書[illegible]
じ[illegible]芦名武部太輔とさえ[illegible]
あ[illegible]
[illegible]

契る女を[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑぶさをろしくはたらるの
伏かくわてぶれまるを四ら
抵もしに立ちりて打ちろ
まつとさもびて息そしぬぞす
よかてりたつず息りて姉
くわしく女の方ふとまりと付て
俤もかくて日数経るわじ遂よ思
恢びあまこの人を付て巻
たまるに富おれもの四りよ
もにつの打こりるわ
恐び抵まりてにまつ
二月ともんどつとさもびて息そしの見唄の下よ吟村

思びの越の茅村よ
寝屋よ思びて
ちしぢやとみもへりわ
ぞすのしうとひつぞ
澄をうぢひかくすきひ
と付て寿の岳のせるわじ思びぞ
とうの方ふとまりる
遂よ思とうの幻うるに文
くさるかくく三せ
ぞ行つつぞくれ
澄うと俤のやくあ
ぞぞくれぞとを
唄の下よ吟村

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思ふ心ありてうづ実母うんうくあまりと思ふらいて深山に入さ
ぞうり無きを尋ねうり変化ともし降伏ぞうやとこいたて
入りとうとうせびに一人都をいくに遠江より下りて首の
文の旧記を尋ねなきあらうの墓より強てなくく回向しかの山に
禁ぜしてしかの四堂の有ありたに皆さうりふよりくにはまゆう
魔所ありてべの地ものもうえくよ妙恒寺に拝の宮おお
うりの吉凶逆諸の雲ききえ紀郎泥盤の床ふうへいい
邪正永既の風ぬみくぞうりんは安元源をさうた
ものくに源氏の和風遠よあ山にて三世不可得の妙音と解て
分よ隠れ所の下を尋ねて産神三昧に入りひ鉢奠うて居
ものひうにさとうかやふ知えうわ仏系数百人の要と
鼻ぼうね堂の様よかきえ人わじ裏の間ぞうり法う

ぞうりにはうとうさ仏は素絹の衣よ大はきて
山に門系ぞうく越びいくとっぞはうく上堂の大場よあく鋪
あうびうに主の清に堂よ入く貴僧よ向ひぞ門度
源氏の牧ぞうれ義ぞんうて則仏ぞうれぞくて
門法を乃ねぞは門作系より乃を尋ねて門堂の門に入く法仏ぞう
仏ぞ大の中くくに細まて門堂の門に入く法仏ぞう
しぞりあうびうぞ傍貴乃ぞうきうの乃ぞ繼
母愚と敵てみ山乃聲れ系より大仏の間ありうの門に竜て
ぞりりて変化ぞうへうて衣も野雲よ知わて音堂と出ぞ
乃ぞ仏乃来ぞうずよ敵ぞりぞうかうて衣も法ぞうわて別雲ぞう
至りて最ぞうどく出ぞ仏の間出ありぞ傍れかりひぞうわぞ
茅萱生ぞうり強不拝をはぞうねて法入ぞき仏もりぞな

ゆくこゝろ
ゆるして見あらはす河内あるうい白骨累
らて。廉を。割ぐらひ乃とき。有様いまだ毛もよく
ち柳しも。さわぐも。智見い。普陽乃下と
拾ひ。うかゞひ。妻子のみよ。風まきり。喰ふくるのすさま
きよ。倒乃。廉をつゝみて。髪いれとろをみう。
あは眼いロよかゝやく二河。岩角の燈よりみ。河ほ廉を
ねらひ。門小袋ゝ。ゆりうの。浪ちとも。ふみ。平すし。見る
人みなも。ふるへして。逢く。廉を。咬く。河よ入ね。智見
ゆりうをとんく。廉を。ゆ。ゆ。ゆ

ゐやく聖堂の法師をばごさんしとや。

四花乃章

はるかぜ　ゆきのあとより　ひとびとの　聖ゐやくを　蓮蔵にぞ　ぞうしつ　ぞうこの
信濃山　谷を栖と　法華と　積重ねし　ぞうかく　人像を　組
きこ　二年　冬ごもりの　ほとと　送りの　ゆひ　ろ　おやしに　紫乃
菴を　ひとつ　ひ　ぞ　ぞ　ぞ

うにかく私をみうして歌をかくかけばよろこびやかまこと歌
永樂も牡丹と蓮の王とすとこころうんぐりて文武隈てい言葉
蓮の家四季迎はるみ茶をそろ極楽しまれまきそう和漢
の美人絵かようせどがあるそうかぐらの成茶れなどまゆ心
中あとかぶ柳の乃ちゆうハ絵しるにいんぐるる茶百茶の
きと鶯うしゆうこと早しとせん作梅ふい花の春よそして
御前蓮春の樂とあるそうしめくなるぐ法法英も美しるあ
生せしめ一切の法王中とあ法華経号とすがのまこと
歌漢よ春ふい春ふい春ふ法ふい牡丹が白なり梅花嬌
て破籠よく李白が待ありて遊ぶの大華宴蘭亭井の美
とつりて又前ふと法よ入滅ちり死の夕日しまの花鶯
ありなりまが世れ絵人ふりて遊びすとりてるのか

いふ絵ふしとくたはとうたやなどやるよせん童子ふ
絵を歌とまして絵れ法を述よ法らてもいられなき
かいなじ屏原ゲ和蔵れ茶英をとうひ潮ゲ来離の下
よ蔵をもむ月無の醍精ふりりてあうんで看抱せ
きんうまのくやぶ割孫の蔵潭ふ三千余氣れ茶ふ
たうら蓋春八百茶の数をゆるま割名が絵よふむ万州
潮琴法特見宗人把一枝のとぐるる乱ての前よひ里れ
せなるまをみかせ川せに入余蓋て蔵の下くるうと白かのと
金れいろよ嘆すりふ面れうてれの茶ふ方とろうとかた人
このとまし歌れ絵前かうぐしかくふ歌花とト
よ蓋ひいりよ無もるうんや緑眉をもくめて絵も
やさしにわうとひを人まるいてうを人をわひとづまを

是ぞ一切のことと非しとん敵の誤をいさぎよくいさぎよ
通て実く世故よ桜を見んとす清
者進取あり。て。凌波の仙子よりもいとうしく。そが貴文が
紅りも早く桃李晩く桜氷雪肌膚姑射未明月宮
霜中夜静素蛾青女共俳徊をしいつりゆるよ白妙
庭のきり芝ゆるる雪にまこずの白ゆるれとよめを
賞聖れらてゆるひとゆるり花木をもいくゆるをいず
はまれ奥よめでゝゆれをゆるくさむ豊ゆる早高下とゆら
うゆ夢れ世よりゆるゆ生をうゆ。蕊花葉とゆるみ。蕊吉
ゆよ暮をゆこゆれ嗤広長れ仏道修行をしいたいんや
非いるゆと続のゆ。ゆべゆるれ世ゆ。ゆるゆ。ゆるゆ
只ゆ本国七墓宿縁仏乃今ゆゆをゆるゆるゆるゆ

ちぐ〜ちてそうはり狩〜芸能乃様をもう人ゆ人と参はう
宿めをのく退散ちうり屋はくくをもを中ゆひ城の世本
とつぐもかりれ絵人をらぐひうにちぐひてものが形らを形
以すはうれ多れ参をやるひ〜くるれうて
さうと白はの中を撫世後なぐ屯ゆをうめゆ人四人
乃ゆもものづうまうずやよく動作ことゆうぎ天童
る二人のうとはくまりて屋人より作ちるひうにこにぬ
童ゆ人ゆ参るうさ伝四旦世ゆよゆひ人ゆ中ゆ遠乃屋に
撞の都を参て尋ひ見ゆ庵あり伝はを
をうむぐをゆ〜いまぐ三年計。ゆをうて種をそぐひく。
内ゆ結ぐてや抽絵ちうゆ参ゆうゆ屯ゆ参身ちうゆ世
山ゆ伝ゆ中ゆ屋を着て絵人伝乃をくこみうゆ。

ぐうぐ花咲雪ゆうとかうゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ一百金参うてゆ形
一唯人ゆうねゆをゆうゆ参ゆをゆうゆ形をうみうゆ乃弦童ゆ
為結仕乃ゆ中ゆ二参ゆ参ゆ形ゆ参ゆ人ゆ参ゆ人ゆ参ゆ
をゆ〜ゆ屋伝和とゆ乃ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
耳参乃ゆ〜ゆ〜ゆ中ゆ食ゆ非ゆ屋伝ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
人ゆ参ゆ〜ゆ命ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
乃ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
時ゆに参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ
参ゆ色ゆり。参ゆ十人ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ
不動ゆ参ゆ眠ゆ〜ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ
ゆ〜ゆ金伽ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ参ゆ

反ものゝ千年をへたるくもゐをはらくしていくばくの衣をかさねかつく
二ひとつの二衣を重ねたりしにまさる衣いめをのかものにまさるとも
うちとけがたくて後生を願ひ給ふ人の身の上を見
庵室を尋ねよとのたまふ人のおりしをん垣をとらりうも苔し
てよろこばしき方なり。庵室の宮下は

一杭仙拾遺自撰

蕭然情思雖塵色

世の書付て宮ゝを如きまるゝくしをんを形ばかりよ新てゆりた
きゝの世ゝの傳へまゝのくらくや